

## 子ども・子育て支援の効果的なアクセス方法 - 「切れ目のない」支援を目指して -

著者	大城 亜水, 内橋 一恵, 伴仲 謙欣
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	12
ページ	36-36
発行年	2018-10-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1492/00001019/">http://id.nii.ac.jp/1492/00001019/</a>

5-B-5

## 子ども・子育て支援の効果的なアクセス方法 －「切れ目のない」支援を目指して－

大城亜水<sup>1)</sup>  
内橋一恵<sup>2)</sup> 伴仲謙欣<sup>3)</sup>

本研究の目的は、長田区の現行の子ども・子育て支援施策と長田区に住む子育て世代のニーズとの間に生じる情報乖離をいかに縮小させ、妊娠中から子どもが就学するまでの「切れ目のない」支援情報を提供できるか、情報の効果的なアクセス方法を検討することである。具体的には、長田区政の情報発信と子育て世代の情報収集（キャッチ）の乖離の実態を把握するべく、双方からヒアリング調査などを行い、長田区の子ども・子育て支援の特有性を浮き彫りにする。そして、長田区の地域特性を活かしながら、「切れ目のない」支援情報の提供方法について模索したい。

そこで、今回は本研究の進捗状況を 2 つの方向から報告する。第一に長田区の人口減少と少子高齢化の背景を掘り下げる。「長田区計画(2016 - 2020)」によると、長田区の人口は 1965（昭和 40）年のおよそ 21 万 4 千人をピークに減少し続け、2015（平成 27）年には約 9 万 8 千人となっている。また、同年の人口比率をみると、65 歳以上の割合はおよそ 32%、15 歳未満の子どもの割合はおよそ 10%であり、どちらも全市 9 区中で最も少子高齢化が進行している。まさに現代日本が直面する人口減少および少子高齢化の縮図が長田区だといえる。そのため、これまでの長田区の子ども・子育て支援に関する取り組みを整理しながら、課題となる点を抽出する。第二に子育て世代の情報収集の実態として、2018 年 10 月 7 日実施予定の子育て情報に関する意識調査の一部を紹介する。

---

1) 教育学部こども教育学科 2) 事務局 3) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科